修理工事こぼれ話㉙　年末年始の状態

熊本地震による阿蘇神社の災害復旧工事が始まってから３年の月日がたち、今回で４回目のお正月を迎えることとなりました。今までは、素屋根（すやね。仮設の覆屋のこと。）で覆われていたり、あまり大掛かりな工事が行われていないタイミングでお正月を迎えていましたが、今年は参拝者の方々から工事中の状態が良く見える状態となっています。このコラムでは、神殿・楼門の、今回の年末年始における状態を紹介し、今までの年末年始の状態も振り返りたいと思います。

１．今回の年末年始の状態

数々の新聞･テレビで報道していただきましたが、神殿と楼門にそれぞれお伝えしたい出来事・状態があります。

まず神殿ですが、現在は下の写真のように一の神殿・二の神殿・三の神殿とも正面から見ることができる状態です。これは、熊本地震により神殿の前面にあった拝殿・翼廊が倒壊し解体・撤去されたため、見通しの良い状態となっています。現在、拝殿・翼廊等の再建工事が行われており、来年の中頃には足場を設置し建物本体の組立が開始されるため、現在のように神殿を望む形で初詣ができるのは今回のお正月が最後になります。是非この機会に神殿正面の姿をお見納めいただけたらと思います。

地震前の拝殿前

神殿はほとんど見えない状態でした。新しい拝殿が完成した後も同様の状態になります。

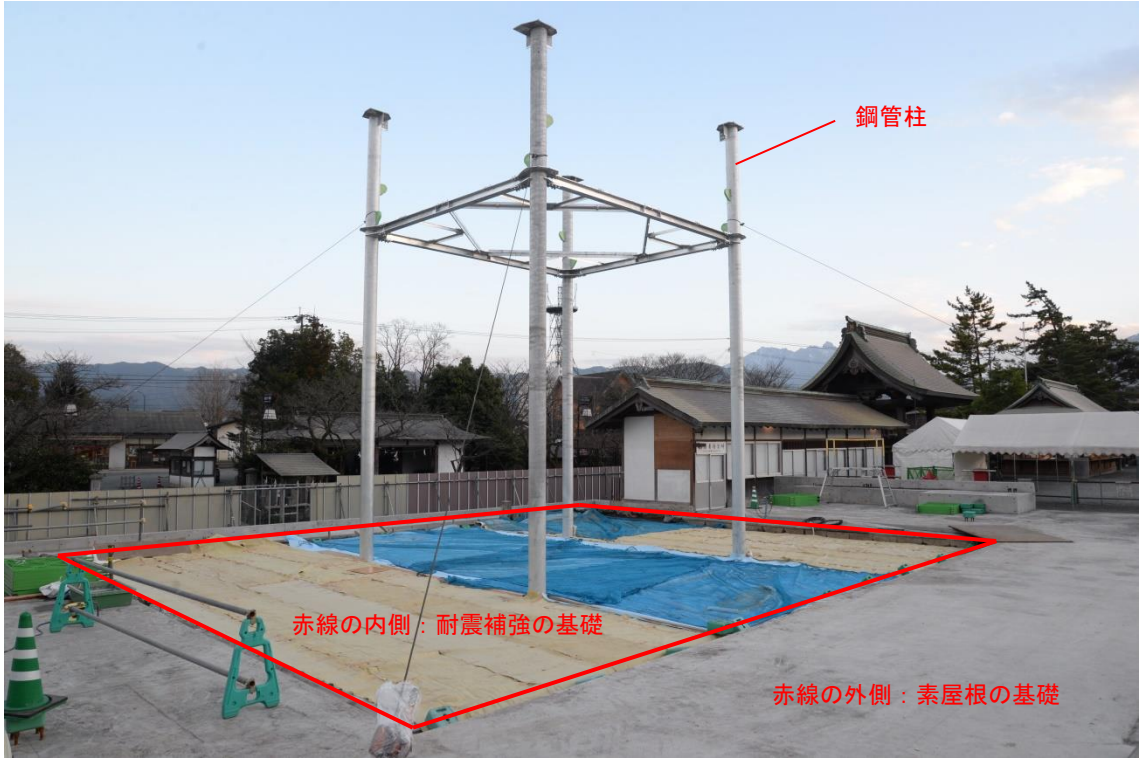
拝殿前の現在の様子

次に楼門です。下の写真の通り、鉄骨の鋼管柱が建ち、コンクリート製の基礎の上に養生を敷いた状態になっています（養生は年末に取り除きました）。現在楼門の工事は、耐震補強の設置と、仮設の覆屋である素屋根の建設を行っています。下の写真では、中央に建つ４本の鋼管柱とその下のコンクリート部分が耐震補強で、その周りのコンクリート部分が素屋根の基礎です。

耐震補強について、基礎は鉄骨鉄筋コンクリート製の部分と鉄筋コンクリート製の部分が一体となっています。鋼管柱の見えている部分の高さは９メートル程になります。

素屋根の基礎は、幅約 28m、奥行約 24.5mあります。建ち上がっている部分は鉄筋コンクリート製であり、そうでない部分はコンクリート製です。

ちなみに、現在の状態では、楼門本体の木造部分はまったく建てられておらず、仮設物である素屋根とサブの要素である耐震補強という、本体以外のものだけある状態です。楼門本体が現代的な材料に変わったわけではなく、本体は元の木材の７割以上を使用してまた木造で復旧されます。本体の組み立ては、令和３年（2021）１月頃からを予定しています。



楼門が建つ場所の現在の様子

２．今までの年末年始の状態

今までの年末年始の状態を振り返りたいと思います。

まず神殿ですが、平成 28 年度（2016～2017）の年末年始は、三の神殿の正面にある浜縁（はまえん）と木製の階段が取り外されている状態でした。それ以外の箇所で工事中の部分はありませんでした。平成 29 年度（2017～2018）の年末年始は、三の神殿に加え、さらに二の神殿の浜縁と木製の階段が取り外されている状態でした。平成 30 年度（2018～2019）の年末年始は、神殿３棟の工事がほぼ完了した状態であり、外観で工事中の箇所はありませんでした。拝殿が建っていたところは、平成 30 年（2018）の夏に基礎がほとんど解体され、地面が広がっている状態に変わっていました。

平成 28 年度（2016～2017）の年末年始

2016 年 12 月 28 日撮影

平成 29 年度（2017～2018）の年末年始

2017 年 12 月 28 日撮影

平成 30 年度（2018～2019）の年末年始

2018 年 12 月 28 日撮影

次に楼門です。平成 28 年度（2016～2017）の年末年始と平成 29 年度（2017～2018）の年末年始は、素屋根が設置されている状態でした。その後、素屋根が撤去され、平成 30 年度（2018～2019）の年末年始は、楼門の基礎石のみが残る状態となっていました。

平成 28 年度（2016～2017）と平成 29 年度（2017～2018）の年末年始

2016 年 12 月 28 日撮影

平成 30 年度（2018～2019）の年末年始

2018 年 7 月 27 日撮影の写真ですが、年末年始も同様の状態でした。

今回のお正月における阿蘇神社は、神殿も楼門も、もう二度と見ることのできない景色が広がっています。せっかくの機会ですので、初詣に阿蘇神社に来られるのはいかがでしょうか。

（石田 陽是）